

令和3年度第3回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和3年12月24日（金） 午前10時00分

開催場所 仙北市役所田沢湖庁舎 3階 第1会議室

出席者

（構成員）

仙北市長	田口 知 明
仙北市教育委員会教育長	須 田 喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂 本 佐 穂
仙北市教育委員会委員	橋 本 勲
仙北市教育委員会委員	細 川 伸 也
仙北市教育委員会委員	田 口 桂一郎

（市長部局）

仙北市副市長	倉 橋 典 夫
総務部長	大 山 隆 誠
総務部次長兼総務課長	藤 村 幸 子
総務課主事	佐々木 明日香

（教育委員会）

教育部長	藤 原 真 栄
教育次長兼学校教育課長	鈴 木 徹
北浦教育文化研究所長	伊 藤 昭 光
教育総務課長	湯 澤 満

## 案 件

### (1) 適正配置に向けてのスケジューリングについて

大山総務部長      おはようございます。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから、令和3年度第3回仙北市総合教育会議を開催いたします。

はじめに、会議の主催者であります、田口市長からごあいさつをお願いいたします。

田口市長          はい。皆様おはようございます。もう年末も近く、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。教育委員の皆様には日頃から大変ご難儀をおかけしております。本日は、仙北市の教育の在り方、学校の在り方について検討するという非常に重要な案件であります。私も10月30日に市長に就任させていただいて約2か月経ちましたけれども、本当に今仙北市の直面している様々な課題を解決するために、色々施策を打ってまいりますけれども、学校それから少子高齢化、新生児の誕生数、そういった問題に私としては非常に危機感を抱いています。今年1年間で、まだ12月は終わっていませんけれども、80人に届くかというほどの新生児の数です。私が生保内小学校の時は、学年で120人くらいは普通にいました。だから、仙北市というくくりでいくと、600人とかそれくらいの数はいたのではないかなと思います。角館とか西木、白岩、神代、そう考えると今の子ども数は非常に心配していますし、これから今11校ある市内の小・中学校はどうあるべきなのか、老朽化の問題もありますし、様々なことを検討しながら、でも、今一番重要なのは子どもたちの教育環境で、どういったところで子どもたちに学んでもらえるのか、子どもたちのどういった環境を我々が作っていけるのかというのが今問われているのかなと。

本当に今、教育に関して素人な私が言うのは本当に生意気なのですが、そこに関して私としては繰り返しになりますが非常に危機感を持っておりますので、委員の皆様からも忌憚ないご意見を出していただきながら、今後の仙北市の教育の在り方について検討していただければと思います。どうかよろしく願いいたします。

大山総務部長      次に、須田教育長からご挨拶をお願いいたします。

須田教育長      おはようございます。本日は、田口市長、倉橋副市長、大山総務部長、教育委員の皆様のご参加のもと、今年度第3回目の仙北市総合教育会議を開催できましたことに感謝申し上げます。この後、教育委員会事務局から本日の協議題である持続可能な学校教育を目指してについて、前回ご指摘いただいたスケジューリングやその方向性について提案させていただきます。スケジューリングやその方向性については、定例の教育委員会でも2か月にわたり協議してきました。その内容を今日は提案させていただきたいと思います。その提案をして、ご意見を伺い、まとめた内容を今後議会の総務文教常任委員会協議会で報告した後に、各地区や学校に出向き説明してまいりたいと思います。

なお、教育委員会における協議では、子どもの出生数が急激に減少していること、学校の劣化が著しいこと、小規模校のメリットとデメリット、文部科学省の基準等を住民や保護者に丁寧に説明して欲しいとの提案を受けております。また、まちづくりの視点にも関連することであり、市当局にも必ず説明会に同席して欲しいとの意見も出されております。いずれ、この2月から数年をかけて現状の説明をしていくつもりです。その中心となる事務局が、学校適正配置準備室であります。是非、教育委員会にその準備室を設置願えればと思います。あわせて、来年度学校適正配置研究検討委員会を立ち上げ、適正配置につ

いて検討いただくつもりであります。

ここで、昨日文部科学省のリモート会議に参加して、一番勉強になったことについて報告させていただきます。私が参加した分科会は、小規模校の児童生徒をどう育てるかという分科会でしたが、やはり仙北市同様コロナの影響で出生数が激減した話題が多く、多くの市町村から報告されました。複式学級で学ぶ児童をどう補習していくかという協議もありましたが、やはり統合は避けられないという市町村がたくさんあり、そのことでの協議もありました。

その中で、私が一番印象に残った言葉に、子どもの数が減ったから統合させてくださいと言っても統合地域の住民は納得しない場合が多い、という言葉がありました。仙北市も同様であります。この少子化が進む中で、仙北市としてどのような人間を育てていきたいのか、どのような子どもを、人間をつくりだしていくのかということをしつかり明示し、だからこのような学校を造っていく必要がある、学校規模をこのようにしていく必要があるという、そういうしつかりとしたビジョンを住民に説明し、理解してもらわないと統合問題は進んでいかないといった発言がありました。分かりきったことですが、大変参考になりました。

この21世紀を担う人材の育成、そしてこの仙北市を担う人間を育てる、地域貢献ができる、様々な視点がありますけれども、そういう視点をこの会議でもしつかりと決めて、そしてビジョンを持ってそれを説明していく必要があるかなということを学んだところであります。

今日この後、準備計画について鈴木次長が説明いたしますが、皆様から忌憚のないご意見を伺いたいと考えますので、よろしくをお願いします。

大山総務部長

教育長ありがとうございました。

協議案件に入る前に、田口市長が就任されまして初めての会

議となります。構成員の皆様ご存じかと思えますけれども、簡単に自己紹介のほうを順次させていただきたいと思えます。

先に私の方から、総務部長の大山と申します。よろしくお願いいたします。

倉橋副市長            はい。副市長の倉橋です。よろしくお願いいたします。

藤原教育部長        教育部長の藤原です。よろしくお願いいたします。

鈴木教育次長        教育次長兼学校教育課長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

伊藤北浦教育文化研究所長    北浦教育文化研究所、伊藤です。よろしくお願いいたします。

湯澤教育総務課長    教育総務課長の湯澤です。よろしくお願いいたします。

藤村総務課長        総務課長の藤村です。よろしくお願いいたします。

佐々木主事           総務課の佐々木です。よろしくお願いいたします。

田口委員            今年の4月1日から委員をしております。田口と申します。よろしくお願いいたします。

橋本委員            西木町上桧木内の橋本勲です。どうぞよろしくお願いいたします。

須田教育長          教育長の須田です。よろしくお願いいたします。

坂本教育長          角館の坂本と申します。よろしくお願いいたします。

職務代理者

細川委員            神代地区の細川です。よろしくお願いいたします。

大山総務部長      はい。ありがとうございます。

それでは今日の協議案件でございますけれども、適正配置計画に向けたスケジュールリングについてです。ここからの進行につきましては、田口市長のほうからお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

田口市長          はい。それでは、協議案件につきまして進行を務めさせていただきたいと思っております。

今回の議事録署名人は、須田教育長と細川伸也委員のお二人にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。議事録が完成次第、教育委員会を通して署名をお願いすることになりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、協議案件に入ります。適正配置に向けてのスケジュールリングについて、説明のほうをお願いいたします。

鈴木次長          はい。教育次長の鈴木です。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。では、資料に基づいて説明いたします。

仙北市学校適正配置再編計画案について説明いたします。学校教育では、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、互いに磨き合うことを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくことを目指しており、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えます。

本市の児童生徒数は、減少化が進んでおり、将来的には複式学級が設置されている小学校が半数を超え、中学校にも複式学級が設置される可能性があります。

文部科学省からは、学校の適正規模・適正配置等に関する手引が示され、全国的、全県的にも学校の適正規模・配置化が進められております。

仙北市教育委員会では、平成28年に学校適正配置研究検討委員会において策定された仙北市学校適正配置に関する提言書をもとに、小・中学校の再編整備を進めてきました。しかし、少子化が予想以上に加速化しているため、再度学校の再編等について検討していく必要があります。

そこで、本市の子どもたちにとって望ましい教育環境を整えるため、取り巻く環境の変化、地域の実状等を踏まえつつ、将来を見通した学校再編の具体的ビジョンを示すことを目的とした仙北市学校適正配置再編計画を策定したいと考えました。

仙北市学校適正配置研究検討委員会での検討内容は、基本的な考え方、再編整備について、適正規模・適正配置・再編計画・教育環境の整備です。学校適正配置再編計画の運営予定についてですが、10月から12月に教育委員会にて方針、今後の進め方について協議をしました。そして、本日の仙北市総合教育会議を迎えております。

次に来年の2月の総務文教常任委員会協議会にて説明いたします。小・中学校保護者へもPTA参観日を利用して、現状の説明をいたします。なお、白岩小学校においては、1月下旬に学校教育懇談会及び学校評議員会にて、説明いたします。また、今年度中に白岩地区意見交換会を行う予定です。

2月以降ですが、仙北市学校適正配置研究検討委員会設置要綱を教育委員会に提案します。また、4月に（仮称）仙北市学校適正配置準備室の設置をする予定です。準備室では、仙北市学校適正配置研究検討委員会の設立準備、アンケートの実施、地域団体、保育園・こども園等への説明、学校施設の状況把握、目指す学校像の設定等を行っていく予定です。令和5年から7年には方針作成、令和8年には、学校適正配置再編計画・実施計画策定をする予定です。

7ページからは、各校舎の劣化状況調査写真となっております。11・12ページの生保内小、23ページからの神代中、西明寺中、桧木内中は築40年以上の校舎です。19ページか

らの角館中・生保内中は築30年以上の校舎です。各校舎の劣化状況を見ますと、子どもたちが快適な学校生活を送るためには、かなりの修繕が必要です。総合的に考えると、あと10年がいいところではないでしょうか。躯体は大丈夫ですから、地震等には対応できるのですが。5年を目途にしっかりとした計画を立てたいと考えております。

2ページをご覧ください。仙北市における学校の適正規模・配置案について、文部科学省が出している適正規模校は、12から18学級であります。(2)の表を見ると、適正規模は角館小だけです。

4ページをご覧ください。令和9年には、西明寺小の2、3年生で複式学級が発生します。令和22年には、将来推計の予測ですが、生保内小でも複式学級が発生します。

5ページをご覧ください。来年度から、角館中以外は、単級となります。中学校の合計人数だけ見ますと、令和8年には、480人を下回る447人となり、1つの中学校と考えると、1学年4学級、全部で12学級の適正規模の学校となります。しかし、令和13年には360人を下回り、1学年3学級、全部で9学級の学校となります。このように、適正規模・配置を考えなければいけない時期に来ていると考えます。

そこで、学校適正配置再編計画を進めるに当たり、基本方針を考えました。3ページをご覧ください。一つ目は、仙北市プライド・オール仙北市として一体感の醸成。オール仙北市としての一体感を作り出すとともに、仙北市プライドの醸成のために、学校再編に取り組む。二つ目は、児童生徒が互いに磨き合い、学力や体力の向上を図るとともに、豊かな人間性を育む教育環境の整備。望ましい学校規模・適正規模を考えるとともに、安全・安心で児童生徒が夢を育むことができる学校施設の整備に努める。三つ目は、みんなで考える子どもたちの未来。角館、生保内、神代、西明寺、桧木内地区の中学校単位にて説明会を行い、意見交換を行う。この三つの基本方針を基に、再編計画

を進めていきたいと思えます。

(4) 適正規模ですが、文科省では、12学級以上が望ましいとしております。学級編制ができる規模、1学年2学級以上が望ましいと考えます。また、複式学級の解消を目標としていきます。しかし、仙北市の地理的条件等を考えますと、(5)の仙北市が考える適正配置の視点が必要と考えます。①通学に関する諸条件を考慮する、②学校建設・大改修について、その妥当性を慎重に検討する、③適正規模・配置の両面から学校再編を検討する、この視点を基に学校適正配置研究検討委員会で検討していただければと思えます。

最後になりますが、教育長が8月議会、12月議会で答弁しておりますが、小・中学校の再編計画については、まちづくりと大きく関連することであり、市当局ともまちの将来像を含めて、協議していく必要があります。市民への説明、意見交換会では、教育委員会事務局、市長部局が同席し、市民対応をしていくことが必要だと考えます。是非、財政課からもオブザーバーとしてご助言いただければと思えます。

全国の再編計画を進めている市町村において、比較的順調に進めている市町村は、部局横断的に連携して取り組み、市が丸となって取り組んでいる姿勢を示し、市民との信頼関係を築いております。子どもたちに望むだけではなく、私たちがオール仙北市で取り組んでいきたいと思えます。

本日は、具体的な数字や学校等を決める訳ではありません。この会議は、再編計画を進めていくことをこの場で共通理解する場です。どうか、忌憚のないご意見をお願いいたします。

田口市長

はい。ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対してご質問、ご意見等ございましたらお伺いしたいと思います。

須田教育長

12月の21日に横手市を訪問しまして、横手市の教育長から色々な話を伺ってきました。横手市はご存じのとおり、横手南中学校と横手山内中学校、十文字中学校、十文字西中学校、大森中学校、雄物川中学校、大雄中学校で明峰中学校。それから、金沢中学校と鳳中学校で横手北中学校と、雄物川地区というところでたくさん統合をしております。

そこで色々なノウハウを聞いてきましたけれども、まず一つ目がこの前も確認されましたけれども、個別の検討会を最初にやったそうですけれども、どうしてもやっぱり無理があったそうです。やはり市内全体の計画を出して話をしていけないと、非常に厳しかったというお話でした。個別の話し合いではやはり反対されて、伊藤教育長が部長時代に130回色々な場所で説明したそうですけれども、やはり市全体の計画を出してからはスムーズにいったということが1点目でありました。

予算については200億かかったそうですけれども、その7割から8割は合併特例債だったということでした。今、長寿命化計画を出して、文部科学省の説明を聞きますと、合併する際には2分の1の補助が出るということをおっしゃっております。財政の裏付けも必要だということでした。

それから3点目が、やはり市に専門の推進をする職員が3人くらいは必要であろうと。本格化したときには、建築関係であったりバス関係であったり、そういうメンバーを入れてプロジェクトチームを作っていけないと厳しいと。事務局も様々な仕事があるので、やはり専門のチームを作っていく必要があるといった話も承りました。

あとは、これは横手のパターンではありますが、事務局が案を作って、それを教育委員会で何回も揉んで、そして教育委員会として検討委員会に諮問して答申をもらうという形をとったそうです。なかなか、検討委員会のところで具体案を作成するのは難しいので、準備室のほうで住民の意向を色々聞いたうえで案を作って、教育委員会できっちり揉んだ後に教育委員会

が諮問し、検討委員会が答申という形をとったというようなアドバイスを受けております。私からは以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。協議事項は一つしかありませんので、委員の皆様にも順次ご意見を承りたいと思います。橋本委員のほうからよろしいでしょうか。

橋本委員

はい。先ほどから教育長と教育次長が話されていますけれども、児童生徒数の減少、特に令和元年度以降の出生が80人弱ということで、今後の市内の児童生徒数の減少というのは避けられない。それから将来の校舎の改築、そういったものは一体に考えて市内全体の学校適正配置を検討する必要があるということで、教育委員会のほうでも協議を進めてまいりました。そのことを次長のほうから、先ほど説明があったということです。

計画の策定に当たっては、保護者や地域の住民の皆様にも第一に現状をお伝えして、再編計画の必要性を強く訴える、あるいは理解してもらうことが非常に大切なのではないかと思います。

それから、計画の策定に当たっては、将来のまちづくりというものに関連がありますので、さっき次長からもお話がありましたけれども、意見交換会には市長部局からも同席をお願いできればと思います。

それから、教育委員会のほうで、学校間の交流、それから、授業にオンラインを活用した取り組みを始めていますので、そうした取り組みを行った結果を検証して説明会や意見交換会の時にこういうことでしたということをお話しして、そういうことも計画の策定に反映していただければいいかと思います。私からは以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、田口委員お願いしま

す。

田口委員

はい。では、5点ほど簡単にお話しします。これまでも、教育委員会の協議会の中で話題になった案件ではありますけれども、確認の意味も込めてお話をさせていただきます。

こうした前回の教育会議で、できるだけ早い段階での具体的なスケジュールが必要だという話し合いになりまして、わずか短期間の間に再編に向けた、あるいは説明に向けた、あるいは将来の教育環境作りに向けた具体的なスケジュールが、こうして案として作成されたことは大変良かったと思います。また、そのためには、これからきめ細かな準備が必要だと思いますので具体的な進行に当たっては、先ほど教育長からもありましたが、専任のスタッフを置いた部署の設置は必要であろうかと思っておりますので、どうかその点の配慮をお願いしたいと思います。

それから2点目ですが、これから住民や保護者への説明があるかと思っておりますけれども、再三先ほどから繰り返しておりますように、現状あるいは将来の見通し等を説明しながら、よりよい教育環境の在り方を考えながら、一緒に考えるスタンスで、統合ありきではなく、統合という言葉については十分慎重に取り扱いながら、よりよい環境作りを一緒に住民と考える、一緒に考えるというスタンスが大事かなと思います。

3点目については、これから説明していく機会が多くなるかと思っておりますけれども、やはり一番大事なより尊重しなければいけないのは、地域の住民はもちろんですが、これからの教育を受けていく、そういう若い世代の方々あるいは保護者の方々、また、子どもたちであろうと思っております。そうしたこれからの世代の意見を聞ける、十分に意見を聴取できる工夫をしていただければ有り難いと思います。こういった形で、住民説明会をもつのか、場をどうするのか、時間をどうするのか、対象をどうするのか、そこら辺までのきめ細

かな配慮をしながら、これから教育を受けていく世代の保護者、あるいは現状の子どもたち、これから教育環境に携わっていく子どもたちの意見も吸い上げていければいいのかなというような希望を持っています。

4点目ですけれども、協議会の話題の中で検討委員会のメンバーの話題があったと思いますけれども、外部の専門家等の参加、あるいは委員の選任については幅広くというような意見もあったように思います。外部の専門家の意見というのも大事かと思えますし、委員長の選任等も、検討会の方向性を決める大事な人選になろうかと思えますけれども、バランスを考えながら、その人選でその先の答申の内容がみえてくるといった危険性もありますので、十分な配慮が必要かなというように思います。

更に5点目ですけれども、文科省から適正規模の指針が出ているわけですし、大いに参考にすべきだし、よりどころにすべきだと思いますし、これからの説明会で再三説明されるかと思いますが、やはり最終的には仙北市の意見を十分汲み上げた仙北市ならではの、仙北市オンリーの、そういう再編計画あるいは整備が必要になってくるのではないかというようなことを考えました。いずれ、このような形で準備が着実に進むことが必然的な時期に来ていると思えますので、以上簡単に思いついた内容を述べさせていただきました。

田口市長

はい、ありがとうございます。細川委員お願いします。

細川委員

はい。先ほど市長の方からもお話しされていましたが、出生者の数を考えると、将来を見据えれば配置ということは必要だとは思いますが、今現在、保護者の方々や住民の方々というのは、配置の件に関してはたぶん全く考えていない方が大半だと思います。いろいろな統合に当たってもそうだと思います。住んでいる地域の距離や通学を考える

と、本当に慎重にこれから行って行って、解決していくことがこれからの仙北市の子どもたちの学校の教育だったり、いろんな交流だったりというところに携わっていくことではないのかということを考えています。

本当に子どもたちが少なくなっていることは目に見えて分かっていますので、これを解決するというのは本当に時間がかかることだと思います。ただ、慎重に説明していければ皆様も理解してくれると思いますので、サポートしながら私も頑張っていきたいと思っています。

ちょっと簡単ですけれども、このような思いでいました。

田口市長

はい、ありがとうございます。それでは、坂本委員お願いします。

坂本教育長  
職務代理者

はい。私の個人的な意見というか感想が多くなってしまおうと思うのですが、ご了承ください。

私自身は、子どもの数が少なくなったから統合という考えにはすぐいけないという、何か自分の中では統合については決して賛成派ではありません。それは、ずっと今までも思ってきたことで、何が理由で何が原因なのかずっと考えてきたのですが、冒頭の教育長のリモート会議でのお話を伺いまして、子どもの数の減少だけで統合ということでは住民は納得しないと、それがずっと今心に落ちました。それ以外の理由、子どもの数が今極端に減っているのを止めることは誰にもできないわけで、これを市が行政が何とかしたから増えるとか簡単なものではないと思うのです。ですから、それ以外の理由で統合の必要性を訴えていく必要があると思いました。

また、市独自の考えを出さなければいけないということも非常に納得いたしまして、住民の皆様にも納得していただけるように統合がなぜ必要なのか、統合するとどんな良いことがあるのかということも慎重に伝えていくことが重要だと考え

ております。

また、先日の教育研究会の中で異学年交流をテーマに話し合っていました。それでやはり、小規模校だからこそできることというのが大変たくさんあるということを知りまして、小規模校ならではのメリットというのもまだまだたくさんあるのではないかと感じております。私自身小学校5年生の時に統合を経験いたしまして、自分は角館小学校で100年を超えた古い校舎に入っていたのですが、5年生の時に雲然小学校と下延小学校が一緒になって新しい学校に入りました。子どもだったので大人の事情は分かりませんでしたけれども、友達が増えて、新しい綺麗な学校に入れるというワクワク感があったのを覚えています。

写真を見ても老朽化が進んでおり、特にお手洗いの状況などは大変な状況があります。そういうところに、統合してこの学校に行くのかっていうのは、子どもたちはやはり嫌がるというかそういう気持ちもあると思います。やはりそういう校舎の整備等も含めて、慎重に話し合いを進めていくことの重要性を感じております。

田口市長

はい。ありがとうございます。ただいま各委員から様々なご意見をいただきました。統合という選択については、やはりこれから本当に慎重に説明をしながら、仙北市の今後のビジョンにも関わってくるだと思えるので、これからの仙北市のまちづくりの中で教育に関してはこういう形だという話にもっていかなければ中々説得力がないし、今坂本委員から話があったとおり、やはりこちらの事情だけで子どもが減った、校舎が古いのでまとめましょうといった簡単なことではないというのは私も重々感じています。

いずれ状況としては非常に厳しいということは間違いないので、今後の在り方というかそういったものについてのどういったタイムスケジュールでというのも先ほど説明をいただ

きましたけれども、タイムスケジュールに関しての何かご意見はございますでしょうか。

では、教育長お願いします。

須田教育長

はい。

事務局内の案ですが、令和8年の9月議会に案を出せたらいいなと考えております。それまで5年かけて、じっくりと住民の方に説明し、先ほど多くの委員からあったように、一緒に考えるスタンスでこういう学校を造っていきたいと、こういう学校にしたいということを出すタイミングを5年後と考えております。

田口市長

なるほど。5年後を目指して、各地域で説明をしっかりと、また、意見をお聞きしながら具体的な今後の在り方について案を出すということで今教育長から説明がありましたけれども、私、実はこういう堅い会議が得意ではないので、皆様からざっくばらんなご意見をお伺いしたいのですけれども。実際、先ほど坂本委員が、子どもが少なくなるから合併では当然納得できないし、小規模だからこそそのメリットがある教育の在り方があるとおっしゃっていましたがけれども、今私が冒頭で話をしたとおり、去年が75人、一昨年が85人の出生数で、これが5年後になると仙北市内の小学生1年生が80人ほどという形になって、たぶん生保内小学校は十何人とか角館小学校が20人とか30人位になると思うのですけれども、そこらへんの現状も踏まえたうえで、小規模で学校を維持していくというイメージというのはどのように坂本委員の中ではお持ちですか。

坂本教育長  
職務代理者

そうですね。考えたときには、やはりデメリットのほうが多いというのは現状としては分かります。友達が同じクラスや学年にいないとか、居ても一人。ましてや子ども同士で生

活が合わないということも当然あるわけで、友達を作るには大人数のほうがましというのは分かりますが、その地域に生まれ育った子どもたちを地域で育てていくという感覚は、やはり学校にはあると思います。それとその縦の繋がり、先輩から後輩への縦の繋がりというのも必要なので、小規模校が絶対に良いとは言い切れませんが、小規模校の良さ、大規模校の良さがそれぞれあるのではないかと思います。

田口市長

なるほど。今の大規模校と小規模校の在り方について、皆様と意見を深めさせていただきたいと思うのですが、橋本委員はいかがお考えですか。

橋本委員

はい。私は、それこそ小規模校で育ってきましたが、デメリットというものを感じたことはないですけれども、メリットとしてよく言われるのは、先生の目がみんなに行き届くという話をされますけれども。今、段々と1学級の人数が減ってきていますので、それは他のどの学校でも同じレベルになってきているのではないかと思います。ただ、みんなが主役になれるというのはひとつのメリットではないかと思います。小さな学校で学んで、将来、世の中に出たときにどうかなという話もあることにはあるのですけれども、小学校のことを考えた場合、ある一定の人数までぎりぎり頑張っ、その地域で学ぶということがその子どもの将来にとってやはりふるさとという意識が醸成されていくのではないかと思います。

ただ、中学校の場合を考えると、やはり一番大事な多感な少年期時代をある一定の人数で過ごすということも考えなければならないのかと思います。中学校で複式というのは、これはやっぱりまずいのではないかと私個人では思います。そうならば、どこかの学校で一緒になってしまうとは思いますが、通学の手段はなかなか解決するのは難しい問題で、例えば1時間かかるものを半分にするというのは現実的ではな

いのですけれども、そこらへんのところを保護者の皆さんに説明をして、子どもの将来にとってはある一定の規模の中で大事な少年期時代を学ぶことが必要ではないでしょうかという話を訴えることが必要ではないかと思えます。

今、私が住んでいる桜木内地域ですけれども、中学校が20人、小学校が40人台の子どもたちで、小学校は複式で学んでいますけれども、不都合があるとかそういった話は私の元には届いていません。ただ、クラブをやりたいということで、他の学校に通う子どももでてきているような実情はありますけれども、将来のことをこれから考えていかなければならないと思えますけれども、差し当たって小規模校のデメリットを強く感じている訳でもないということです。

田口市長

今のクラブのお話ですが、学校は桜木内だけれども、クラブをやるために別の学校に通学しているということですか。

橋本委員

そうですね。そういう子どもも何人かいるようです。

田口市長

そうなのですね。分かりました。田口委員は規模について、どのような考えをお持ちですか。

田口委員

はい。私は38年間教育現場におりましたけれども、小規模校と呼ばれる学校にもおりましたし、大規模校も中規模校も経験しております。

中身から言えば、私も小規模校には小規模校なりの良さがあるんですね、デメリットを感じたことはございません。現在の小規模校の中で、人間関係とか少人数での授業とか行事をダイナミックにできないとか、そういったデメリットをなんとかして解消できないかといった工夫を現場ではされていて、例えば異学年交流といった話が先ほどもありましたけれども、単学級だけの行事ではなくて他学年との交流を交えた

授業や行事を行い、全校単位での上下関係無しのダイナミックな活動を工夫したりだとか、あるいは地域と一体になって、子どもだけでは足りないの、地域を巻き込んで地域の住民と一緒に行事を計画するだとか、大規模校ではそうした取り組みはなかなかできません。地域を巻き込んで、地域と一緒に行事をすることはなかなかできないので、逆にデメリットをメリットとして活かしているという工夫がされていて、苦勞しながらも小規模校なりの良さを全面に出してですね、デメリットをメリットに変えた工夫を最大限にして教育活動をしていると感じておりますので、できることならぎりぎりまで学校として機能が果たせるものであって、校舎も学校を希望して子どもたちも楽しい学校生活が充実しているのであれば、その学校を維持してあげたいなという思いが前提に。

かといって、例えばスポーツの選択とか選択肢という面だとか学校独自の教育外の活動だとかということについては、やはり制限があるのかなと。選択肢が小さくなってそれをやるためには遠くまで移動しなければいけないとか、隣の学校に行かなければならないというような保護者への負担も出てくるのではないかと思います。

田口市長                    はい。ありがとうございます。細川委員お願いします。

細川委員                    はい。私が育ってきた環境の中では、特段生徒がいっぱいだとか少なかったとか極端なところで育ってきたということはないので、大体ちょうど良い環境の中で育ってきて、私の子どもたちを見ていても人数が少ないからといって特段不便なことは正直ないです。例えば小学校が統合になりますということに仮になったとしても、子どもたちというのはすぐに仲良くなったりできるのですが、中学生となると心が大人に寄ってきている子どもが多いと思うので、それがちょっと難しいのではないかなというのが正直あります。

ただ、大きい学校でも小さい学校でも先ほどから委員も皆さんがおっしゃるとおり、ぎりぎりまでやっても良いのではないかなど、私もそのように思っています。

田口市長                   なるほど。では、教育長お願いします。

須田教育長                昨日のリモート会議で、非常に有意義な発言があった中で私が是非これは取り入れなければならないと思ったのが、私も初めて目から鱗の話であったわけですが、小学校の先生方を兼務発令するそうです。それで、小学校の先生に兼務発令は今までないのです。白岩小学校と角館小学校、西明寺小学校と神代小学校と桧木内小学校などの先生方に兼務の発令をかけて月1回の体育とか図工とか音楽を一度集めてそこで授業をすることによって、いわゆる小規模校で味わうことのできないような授業を展開するということをやられてました。今、うちのほうで兼務をかけているのは、中学校の専科の部分と、桧木内小学校と中学校が近いということもあって、中学校の先生に兼務発令をかけて桧木内小学校に体育と音楽を指導に行っているわけですが、

そのほかに小学校の兼務も今後考えていく必要があるのかなど、昨日勉強したところであります。

田口市長                   学校の先生は複数の学校を担当するということですか。

須田教育長                そういうことです。

田口市長                   そのメリットというのは。

須田教育長                やはり6人、7人で体育をやるのと20人、30人で体育をやるのでは違うのですよね。6人、7人ではバレーボールとかはできないので、そうすると種目がたくさん学べるとか

楽しむことができるという良さがありますね。

田口市長

なるほど。私は今、皆さんのご意見を伺っていて、冒頭で話したとおり私は教育の素人ですけれども、今の仙北市の学校を教室と見立てた場合、教育長が今おっしゃったような、例えば運動会。各学校が集結して、もしくはみんなで協議することを学んだりする場を作る小規模校の維持、というのも選択肢のひとつかなと感じていました。規模についてはなかなか難しい討論だとは思いますが、教育長、横手の事例がありましたけれども、では、横手は決断したということですか。

須田教育長

そうです。ひとつはやはり、うちと同じですけれども、校舎が非常に古くなってきたということで、前は長寿命化という話は無かったので大規模改修統合するのに各学校で何億かかるのを5年間で例えば40億かかるとすれば、1校新しい学校ができますよということで、校舎問題があったと。

あともう1つは、中学校の部活を運営することが難しくなったので、例えば山内中なんか10年待ってくださいと、10年かかったそうです。どこもみんなやっぱり、統合の話が出てから10年かかったそうです。一番難しかった大森、雄物川、大雄というのは、よくここで統合を果たせたなと思ったのですが、市として全県一の学校を造ることを条件に、すごい金額がかかったそうですけれども、体育館が2つ、テニスコート、武道場、野球場、陸上競技場、セミナーハウスを造って、そして新しい学校を造ったと。合併特例債という、かなりの金額の補助を貰ったそうですけれども。そういったことで、新しい学校を造るということで、住民に説明したという経緯があったそうです。

田口市長

少子高齢化という現状があるものの、教育の在り方について

は、我々が先入観を持ってこのようなゴールを目指すというよりは、やはり地域住民の意見を聞きつつ、子どもたちがどのような環境で育っていった方が良いのか、規模ではないという皆さんのご意見があったと思うのですけれども、規模感とってどこまでを小規模と呼ぶのか、学校というものを維持するのは最低どれくらいの生徒が必要かという現実もあるとは思いますが、小規模だから可哀想、小規模だから子どもたちが不憫だということではないということ、実際に教育の場に立たれている方、また子どもさんがいらっしゃる細川委員などの話を聞くと、非常に説得力があるなと思います。そこも含めて、これからの在り方について、今のままではなかなか維持していくのが難しいとは思いますが。

他に何かご意見があればお願いしたいのですが。

田口委員

はい。小規模校については、様々なデメリットをメリットに改善しながら工夫していくという話をさせていただきましたけれども、限界というものがあるわけで。例えば、先ほどから出ている複式学級というものがありますけれども、人数が16人を切った場合は複数学年がひとつになるということで、将来的に小学校が1複式から2複式になると話も先ほどの説明でありましたけれども、やはり複式になると授業の制限が出てきます。体育とか音楽はカリキュラムを工夫しながら、一緒に授業ができる訳ですけれども、算数、国語、あるいは理科など、そういったものに関しては限界があります。そうすると、一人の先生が複数の授業を一つの教室の中で工夫しながらやらなければならないし、あるいは3年生と4年生の複式であれば、本来は4年生で勉強しなければならない学習を一度に3年生も4年生と一緒にやって、次の年は3年生で学習しなければならない内容を4年生でやるようにカリキュラムを混合させて、2年間で3、4年生の学習を行うのなど、そういうカリキュラムを工夫してやるなど。

あるいは市単独で県から派遣される場合もありますけれども、臨時的に授業だけ別々に行うと。それには当然人的配置への配慮が必要になってきますので、それは県が補助する場合、市が単独で行う場合、仙北市の場合はほぼ市が単独で補助をつけていると思いますけれども。

そうした授業の効果的な進行、あるいは本当に授業が少人数が楽しいか、大人数が楽しいか、という部分での制約も出てくるかと思います。多様な意見を聞きながら自分の学びを深めていくということは、やはり小規模校には限界があります。一人二人という学習の場合は、先生と一対一で授業を進めなければいけない。それこそ、パソコンを活用しながら学習の楽しさなりを見つけながら、一生懸命、少人数のデメリットを工夫しながら学習をしているわけだけでも、限界があります。そういうメリット、デメリットを現実の授業場面や学校生活でいかにイメージさせて説明していくか、というあたりも今後の小規模校の在り方を考えたときに、教育環境の充実という点で考えたときにどうかというときには、そうしたきめ細かな説明も子ども自身がどう思うかというあたりもですね、加えてお話ししていかなければならないと思っています。

田口市長

単純な質問ですが、複式学級を持った先生の負担というのはどうなのですか。

須田教育長

それはですね。かなり負担であるとのこと。複式の学校にいる先生からすぐに異動希望が出てしまう問題も出ました。だから、どうやって複式を解消していくかが難しいと。それで、今は白岩小学校と桧木内小学校が複式なのですが、7年後には西明寺小学校でも複式が出てくると。20年後には、間違いなく生保内小学校でも複式になっていると。

ぎりぎりまで頑張るといえるのは分かりますけれども、ぎりぎりになってから統合していきましようとなると、財政的な面な

どいろいろな面があるので、それで私たちは5年間というところで考えたわけです。5年間でどういった形にするのかは住民の意見を聞いて保護者の意見を聞きながら、数であったり場所であったりを出すわけですが、そういうことを考えての5年間でありました。

田口市長

そうなると、学校の先生に対しての負担がやはり非常に気になるところがありますけれども、もう一つ皆さんからお聞きしたいのがデジタル化についてですが、例えばZOOMとかですね、市職員の部長等会議もZOOMで角館庁舎と西木庁舎と繋いでやりますけれども、リアルで集まるときとZOOMでやるときがあるのですけれども、例えば教育現場において複式学級を担当するときに先生が、今日、生保内小学校はリアルでやって他の学校はZOOMでやるだとか、同じ教室にカメラを置いたりだとか、次は角館小学校で行うだとか、例えばそういったデジタル化とかZOOMだとかをコロナ禍でそういう生活がなじんでしまったところはあるのですけれども、教育現場で簡単に導入できるかは分かりませんが、そういった点も選択のひとつかと思うのですけれどもいかがですかね。橋本委員はどのように考えますか。

橋本委員

先ほどお話ししたのですが、学校の交流とか授業にオンラインの活用を取り入れているようですので、そういったことはどんどん進んでいくと思います。

その結果がどうなのかというのは、検証してみなければ分からないことだとは思いますが、ひとつの手段だとは思いますが。

田口市長

選択肢のひとつですね。坂本委員はいかがですか。

坂本教育長職

はい。GIGAスクールのこともあるって、タブレットを活用

務代理者 しきれていないところもまだあって、これを機に学校と自宅とか学校と学校だとか広げて行って、子どもたちは大人よりもそういうことを受け入れていくのは早いと思うので、色々なことを楽しくやっていけたらと思います。

田口市長 はい。細川委員はどう思いますか。

細川委員 はい。子どもたちは多分、タブレットが好きな子が多いと思うので、慣れるのが早いと思います。ただ、やり方としては一気にやるのではなく、少しずつ徐々にやっていっていけばそれが多分広がって行って、上手に進んでいくのではないのかなと思います。

田口市長 今なんて、うちの姪っ子とか甥っ子を見ていても1歳で、もうやっていますもんね。教えたわけでもないのに使えますし。子どもたちの方が先入観がなく、産まれた時からそういう環境で育ってきたからですね。

坂本教育長職  
務代理者 すみません。それに関して少し話題がずれるかもしれませんが、オンライン交流会を西明寺小学校と桧木内小学校で行った時の具体的な内容を教えていただけないでしょうか。

須田教育長 そうですね。まだ1回目でしたので、授業ではなく児童会をどのように行っているかの交流でした。  
一番良かったのは桧木内小学校で、なかなか刺激が無いなかで大変良かったということで、その話を受けて校長先生に次は角館小学校ともやってみませんかと話をしました。その10日後にまたやったのですよ。そのことについて教えてください。

伊藤北浦教育  
文化研究所長 角館小学校も桧木内小学校と同じで、児童会の交流について行いました。

坂本教育長職務代理者 何年生ですか。

伊藤北浦教育文化研究所長 6年生です。その中の代表委員が参加しました。例えば、縄跳びがある西明寺小学校が良かったとか、角館小学校はこういった活動をしているということで、それぞれの学校の特徴が発表されました。そこでお互いの学校の子どもさんたちにインタビューしたのですけれども、各学校の特徴を見て、あのようになりたいと刺激を受けたようでした。以上です。

須田教育長 あとですね、この次の研究授業で神代の先生が西明寺と兼務発令がかかっていますけれども、2校を繋げて研究授業をするそうです。初めてのことだと思います。つまり、一緒にカリキュラムを合わせることは難しいらしいのですが、合わせて授業をやりながら、いわゆる相互評価のところをメインにしていますけれども、お互いに批評し合うという授業を。楽しみですね。

坂本教育長職務代理者 確実に進んできているような感じはしますか。

田口市長 そうですね。例えば、過疎地の小規模の学校にいる生徒であろうが、東京であろうが、教育レベルは変わらないような環境を我々は提供していかなければならないと思うので、教育格差というものは絶対に避けなければならぬと思いますし、Webとかそういったオンラインというものが普及するということは、逆にそういうところを有効に活用できるのかなというイメージはあるのですけれども。でもリアルがなければ、すべてがオンラインではとてもじゃないけど駄目なんです、人と人との関連というのが当然あると思います。

せっかくですので、ここで行政側からの意見を伺いたいと思いますので、倉橋副市長の方から順にお願いします。

倉橋副市長

平成28年に適正配置の提言書が教育委員会から出され、複式学級が増えてきたとか、特定の学校の状況によって適性配置の検討をしてきたというのがこれまでのやり方ですけれども、この時点では出生数が100人を越えていた中での提言書でしたから良かったのですが、今度はそういうわけにはいかなくなったという現状を踏まえて、今の議論があると考えています。

それで、スケジュールをこれから5年かけて計画をまとめるということですが、私としては教育長、市長が交代したタイミングで遅くもないし早くもない、ちょうど良いタイミングではないかと思います。たまたまそのような時期に巡り合わせたということなのですけれども。

また、先ほど教育長が令和8年9月議会に案を出したいとある程度明言されましたけれども、ゴールを先に決めてからというやり方は非常に良いのではないかと思いました。でないと、いつまでもずるずるといって、いつまでも結論が出ない可能性もあるので、市長部局も教育委員会と一緒にそのゴールを目指していきたいというものがあります。

この議論の中で児童生徒の授業、子どもたちの教育環境などの中身をどのようにするかが第一かと思いますが、ここは教育委員会の判断だったり考えが大事ですし、我々としては最大限に尊重していく立場になるかと思っております。

市長部局としては、財政面やハード面をどのようにしていくかということがございます。令和元年でしたか、当初予算の議論、長寿命化計画の中で生保内小学校の大規模改修を予算の中にもってきました。その時、既に出生数が市全体で100人を切り始めていて、生保内地区だけで見ても、もう1クラスあるかないかの見通しになっている中での大規模改修の予算が出てきて、私どもも大変困惑いたしました。生保内中学校があって、生保内小学校もそのままずっとあって、それに対して市で

その学校自体の存続があるかないか分からない段階で、これだけの予算を投資するだけのことを今できるのかという議論になりました。準備してきたことを一旦白紙に戻すことは教育委員会としても大変だったと思いますけれども、具体的にそれに予算を通すだけの理由がもう無いです。生保内小学校の校舎を大規模改修して、そのまま20年、30年存続するという選択肢はその時点でもう我々には無いと判断したわけです。それが今の議論に繋がっていると考えています。

これからは、このまま全てが存続することはあり得ないと思っています。ただ、その中で将来的に統合という案が出てくるとは思いますけれども、果たして今の仙北市の財力で全く新しい校舎をすべて建設できるのかという、また別の問題も発生しています。先ほど横手市の例がありましたけれども、そういった立派な学校を建てるということになれば、地域の声も違うとは思いますが、市の現状を見る限りそれはなかなか困難だと思っております。その中での議論を進めて行くという認識で、なんとか理解していただきたいと思っています。

それには、創意工夫が非常に大切になってくるとは思います。今ある小学校、中学校の校舎を活用していくことも考えていけないといけないと思いますし、全く別の場所に建てるのが果たしてできるかどうかという何分にも仙北市が広く、通学距離が全然違いますので非常に困難かと思っておりますけれども、いずれ地域の説明会の際には、我々市長部局も入っていくわけですが、その中ではやはりまちづくり、地域づくりをどのようにしていくかのビジョンを市としても示していかなければならないと思います。

統合に限らず、公共施設をひとつ無くすことへの反発は、地域の拠点がなくなるので、どうしてくれるんだというのが地域感情だと思いますので、それに応える代案を考えていかなければならないと思います。市長部局も当然協力していくわけですが、その地域の職員も自らの問題として考えていくよう

な仕組みを作っていかなければならないと考えております。

特に若い職員は、その地域でのリーダー的な役割をこれから果たしていかなければならないと思いますので、自分の問題として自分の住んでいる地域をどうしていきたいのかという思いを強く持っていただきたいと、その中でこの適正配置計画の議論に参加してもらいたいと思っていますところです。

私からは以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。

それでは、総務部長お願いします。

大山総務部長

はい。倉橋副市長の発言のとおりだと思います。教育環境の充実は最低限だとは思いますが、それを支える財政面はどうなのかと。小学校が6校、中学校が5校ということで、それも40年超えや30年超えとなっており、建て替えとなると莫大な資金がかかるということです。

副市長もおっしゃっていたとおり、現状では厳しい部分もあります。特に将来的な財政事情を考えると、生産人口が減っていく中で、そうした場合は学校数減らしてその余剰の部分で通勤、通学の確保という形も考えられますし、切り離せないのかなと思っています。

私がふと思ったことは、適正計画の中で市としての最終的な中学校1校、小学校1校という形を目指すか、最終的に教育委員会の中で方針としてこうしましょうとあがったものをそのまま受けるのか、市としてこういう形にしたいというところまで示したうえで、やはり2校必要だとなったりするのかとったりしますけども、そのへんの市の考え方を委員会に示す場はあるのでしょうか。

須田教育長

と、ということでこの総合教育会議という場があると思っています。

教育委員会としては、このような感じでお願ひしますとなったとしても、財政的な裏付けがないとできないわけですので、そこで総合教育会議を相当数、開催していただかないと厳しいかなと思っています。

田口市長

そもそも住民に説明をしっかりとするのは、何を説明するのかっていうものを持たないと説明しようがないです。おっしゃるとおりゴールをある程度作って、そのゴールに対する説明を、我々としてはこのようにしてやっていくということを説明することなのですが、そのゴールを設定しなければならないですよ。だから、統合して将来的にどのようなビジョンを描いていくのか、先ほど皆さんからご意見いただいた小規模でもなんとか存続させていく方法であっても、ゴールをしっかりと共有していかないといけないなかで、そういった対象者となる保護者の方々の話を聞かなければと思います。住民説明会というよりは、まずは意見を吸い上げるというところからスタートして、それを踏まえて委員の皆さんとどのようにしていくかという話なのかと、今日初めて参加してこのように感じています。

これからその点を積んでいかないと。少なくともここに居る人たちのベクトルを合わせないと、市民の皆様に対して説明のしようがないですよ。

須田教育長

はい、おっしゃるとおりです。まず1年目は現状を説明するつもりです。子どもの数が減っている、学校が劣化している、再編は避けられないという説明をして、2年目あたりからは、じゃあどういふふうな学校を作っていくべきかという意見を吸い上げて、3年目くらいからはどうしていきましようというところでゴールをある程度描きながらの説明となっていくと思いますけれども。まず最初は現状説明、次に住民からの意見を聞くと。

子育て世代を巻き込んで、その方々の意見を聞いていくと

というのが、準備室で工夫をしなければならぬことだと思っています。まずは、丁寧な説明がなければ皆様反対されると思うのです。

藤原教育部長

時代は違うのですけれども、私自身6年間の複式を経験し、学校の統廃合も経験してきた人間ですので、同級生、先輩を見てみると、中学校に進学した時に3割が学習についていけないという現状がありました。

学校が統合した時に猛反発をしていたお年寄りの方というのは、コミュニティが崩壊するのではないかということが一番心配していたようです。実際そんなことはなくて、地域がそのまま残っているわけで、そういった経験を踏まえて、白岩地区は今年度中に話ができるのではないかと思いますけれども。

ただやはり、私が定年前に話をするとなんとなく無責任に聞こえるかもしれませんが、実際その経験を踏まえて、先日行った指定校変更の会議データを見ても、子どもたち自身や子どもを養っている保護者の考え方は、部活ありきとか人間関係がまずいということで指定校を変更したいという方が十数人ほどおられます。これは、大事にとらえていかなければならないと思います。それが原因で不登校になったり、実際、常に十数人不登校の子もいますし。問題がない方々はそれはそれで良いのですけれども、問題があるところに目を向けていかないとまずいことになるのかなという気がします。

教育委員会内で雑談レベルで話をしているところでは、小学校は通学距離や時間の関係があるので、あまり無理はさせられないというのがありつつも、中学校は1校が良いのではないかと。やはり、授業と部活の関係がどうしてもあって、部活の関係で指定校を変更したいという方々が結構いらっしゃいますので、そういうところを考えると色々な部活があった方が良くと思いますので、1校の方が現実的なのではない

かなと考えます。

いずれ、最初の白岩の現状説明に行った時にどういう反応があるのか、様子を見ながら進めていきたいです。

田口市長            はい、ありがとうございます。では、鈴木次長お願いします。

鈴木次長            はい。私からは情報提供ということで、2点ほど話させていただきます。今、藤原部長もおっしゃいましたが、中学校にあがったときをきっかけに指定校変更をする生徒がいるのですけれども、市内で変更する分は比較的そのままなのですけれども、実は市外に移る家族もいます。ということは、仙北市に残らないということが実際見えておりまして、そのようになっていくと今やりたい部活がないとか色々なことがあるのですけれども、そのような事実があるということは真剣に受け止めなければいけないなと思いました。

もう1点は校舎状況です。今期は雨漏りがひどく、各校舎では非常に目立っております。学校教育課の管理係が現場に行って対応してくれていますが、応急処置等を施して予算が無いなか、非常に頑張っております。ただ、逆に言いますと、いっぱいいっぱい状況でもあるということをお伝えしたいと思います。以上です。

田口市長            ありがとうございます。伊藤北浦教育文化研究所長、お願いします。

伊藤北浦教育文化研究所長    はい。私は教員でしたので、大規模校、小規模校のどちらも経験しております。教員の立場から言わせてもらえば、与えられた環境で一生懸命子どもたちを支えていくことが使命だと考えておりました。ただ、行政職について感じたことなのですけれども、教育のインフラが整っていることが教育

の大前提になっているように感じております。雨漏りをする校舎で良い教育ができるのかというところなのですが、応急処置だけの改善になっているのかなど。

このままいくと、子ども一人一人への市全体としての、特に行政サービスが低下していくのではないかと感じております。そういった点も、視野に入れて議論を深めていただければと思っております。以上です。

田口市長                    ありがとうございます。湯澤課長、お願いします。

湯澤教育総務            今日、皆さんの意見を聞きまして、私自身も丁寧な説明をしていかなければならないと元々思っていたところですが、今日のお話を聞いて改めて感じていたところでは、田口委員からもありましたけれども、いろんなことに関して聞いてくださる方々がしっかりイメージできるように、聞く方の立場に立った説明を丁寧に細やかにしっかりと説明していかなければならないと改めて強く思ったところでは。

あともう一つあるのですけれども、今日の資料の4ページに児童生徒数の推移がありますけれども、今日小規模校のお話がありましたけれども、やはりこれからじっくりと丁寧に5年後を目途にという話がありますけれども、一方で白岩小学校や桜木内小学校では複式学級があるということと、白岩小学校を見ますと来年度ですね、学級数が5から4になっておりますけれども、今月の12月議会の際に、高橋輝彦議員から白岩地区の小学校に関する説明会はどうなったかという質問等がありましたが、その際に高橋議員がお話しされたこととして、今の子育て世代の方々というのは、角館中学校出身の保護者は少子化ということをご様分かっていることで、ひとつの意見としては、早めに統合した方がいいのではないかという意見もあるという発言もありましたけれども、いずれにしてもしっかりとし

た説明をして、広く市全体の皆さんから意見を聞いていけるように取り組んでいきたいと改めて思ったところです。

田口市長           はい、ありがとうございます。藤村課長お願いします。

藤村総務課長       はい。出生数が毎年減少しているということから、いろいろな定住や出会いの支援をやっているわけですが、公約は無いにしても引き続き、子育て政策も含めて連携を進めていければと思います。以上です。

田口市長           はい、ありがとうございます。佐々木主事お願いします。

佐々木主事       はい。本当に個人的な感想で申し訳ないのですが、私は小学校、中学校を卒業してから10年ほど経過していますが、その時に出会った友人達とはいまだに連絡を取り合っていて、非常に心強い存在だと思っています。極端な話ですが、小規模校では学年に自分一人しかいなくて、このような友達ができないこともあるのかなと思います。

子どもたちの学びとか現状を維持することも非常に大事だとは思いますが、子どもたちのこれからの未来を見据えて、大人になったときの姿を想像していくことも重要だと思います。今日の会議を通して、非常に難しい案件だと改めて感じました。

田口市長           はい、ありがとうございます。教育長、適正配置準備室だとか適正配置研究検討委員会という想定がありますけれども、これらの設置はこれからということでしょうか。

総合教育会議が担うべき、これからの在り方とこの総合教育会議の関係性というものはどのようになるのでしょうか。

須田教育長       適正配置準備室及び適正配置研究検討委員会は市当局にお

願いして、予算の関係もありますので、当初予算にあげているところ です。

総合教育会議との関係性については、先ほども申し上げたとおり、まずは準備室で色々な案が出たものを教育委員会の皆様に承認していただいて、その後、この場で揉んだあとに適正配置研究検討委員会に持っていきます。いくら適正配置研究検討委員会でこうなったと言っても、財政の裏付け等がないとどうにもならないので、まずこの総合教育会議でやっていかなければいけないと思っています。

田口市長

ここからがスタート、発進ということですね。分かりました。そうすれば、先ほど教育長からも頻度を高めて、総合教育会議を開催していただきたいとお話もありましたけれども、どのようなイメージで考えられていますか。

須田教育長

まずは保護者説明会の現状であったり、説明会での意見だったりとその都度報告させていただきます。それからアンケートをとって、先ほど私が言ったように市として目指すべきビジョンを市当局にも入っていただいて、これでいきましょうといったところで、こういう子どもを育てたいからこのような学校を作る必要があるというのを示していく必要があるのかなど。だから学校はこのくらいの数になる、ということを示していく必要があると思います。

田口市長

なるほど、分かりました。皆様からたくさんのご意見をいただきまして、まずは先ほど教育長から話があったように、現状を保護者や対象となる市民の皆様の説明すると、その中でどのような反応、感想、意見がでてくるのかを踏まえたうえで、またこの場で皆さんとご意見を交わしながら、選択できる部分と選択できない部分というのが当然ありますので、我々が現在持っている選択肢は何か、それが今の市民の皆さんや子どもさん

や保護者の方々は何を期待していて、選択したらいいのかというすりあわせというのが重要かと思います。

教育部長からも話がありましたが、例えば今の小規模校を維持しながら、中学校を統合して1校するというのもひとつの選択だと思いますし、そういった意味では色々な選択がまだ我々にはありますので、何が一番良い選択なのかということをおこの場で皆さんと意見を交わしながら、ただやはり、ここの場だけではなくて、実際に対象となる保護者の考えや要望、そういったものを踏まえたうえで、ベストな選択をしていく必要があると思います。

横手市のように何十億もお金をかけて新しい学校を建てて、その代わり統合するということは正直、今の仙北市の財政的にはなかなか選択が難しいので、そこも含めて校舎の老朽化も顕著であるとの説明もありましたので、その現状もしっかりと受け止めたうえで、今後のビジョンを描いていきたいと、私としては思います。

私が言うのも何ですけれども、幸福度ナンバーワンと謳っていますので、それは当然教育の場でもしっかりやっていないと、絵に描いた餅で終わらせるつもりはありませんし、先ほど懸念されていた部活とか学校の現場の状況では、転出されてしまうのではないかと。他の地域に行って子どもを育てたいとなると、一番仙北市としては将来の絵が描けなくなってしまいますし、もっと言うと、厳しい現状ではありますが仙北市の中で良い教育ができることで、他の地域から仙北市は良い教育環境がある、学校が素晴らしい、是非仙北市で子どもを育てたいと他の地域から入ってきてくれるくらいを目指して、災い転じてとまでは言いませんけれども、厳しい現状を逆手にとって見いだすことができれば、全国でも先駆けた最先端の教育にもしかすると近づいていけるのではないかと、空元気ではありませんがちょっと思ったりしています。

皆様から引き続きご意見を伺いながら、繰り返しになります

けれども、本当に一番良い選択をしていければと思っています。議論としてはこのような感じでよろしかったでしょうか。

須田教育長 私からも一つお願いしたいのですけれども。若い世代との意見交換会を市役所内で。先ほど副市長からも話題を出してもらったのですけれども、私にとっては非常に関心高い話を聞きたいと思っていますので、できれば2月議会が終わった後にも。できなければ、来年早々にでもやっていただければと思います。

田口市長 わかりました。それはすぐに実行するようにしていきたいと思います。

他に何かございましたら、お願いいたします。

橋本委員 この件ではありませんがよろしいでしょうか。東北6県と仙台市では、最終土曜日とその翌日を東北文化の日と定めて、美術館でイベントを行ったり観覧料を無料にする取り組みがあるそうです。そうした取り組みについては、ガイドブックで紹介されていました。仙北市でも新潮社記念文学館、平福記念美術館、樺細工伝承館、クニマス未来館などの立派な施設がありますので、東北文化の日の取り組みに参加をして、施設の情報発信をしていただければと思いますので、是非検討していただきたいと思います。1か月間そのイベントを継続しているとのことでした。

ガイドブックは平福記念美術館にお届けしてありますので、是非参考にしていただければと思います。

田口市長 貴重な情報をありがとうございます。他に、なにかございますか。

坂本教育長職 私の個人的な意見ですけれども、先日、角館小学校のドリー

務代理者 ムハーモニーが全国大会に出場しました。由利本荘でパフォーマンスした時の模様が先週の土曜日にAKTで放送されまして、私はそれを見ただけで涙がこぼれました。

ビデオを撮っていると思いますので、なにか市のホームページにYouTubeをあげるだとか、市民の多くの方に見ていただけるような状況を。

あとは、例えば弁論大会を頑張ったようですので、期間限定でも構いませんので、なにか動画を市民の方にもっともっと見ていただけるような方法が考えられたらと思います。

田口市長 これは可能でしょうか。

藤村総務課長 はい。データを頂ければ可能です。

田口市長 是非アップしていただきたいと思います。

その他案件は何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、今日の案件は以上とさせていただきます。進行を総務部長にお返しいたします。

大山総務部長 様々のご意見をいただき、ありがとうございます。それでは、これをもちまして、令和3年度第3回仙北市総合教育会議を終了します。お疲れさまでした。

(午前11時35分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員